

4 橋 梁

(1) 全体計画

橋梁等を計画する際は、水辺や緑と一体的な景観となるよう配慮するとともに、国、都のガイドライン等との整合を図りながら、高欄のデザインや色彩等を周辺と調和させることが求められます。

また、橋梁が地域のシンボルになっている場合は、自然・歴史等の地域特性を考慮し、形態・意匠や色彩等に配慮します。



(2) 橋梁本体

橋梁本体の計画にあたっては、地域特性を尊重するとともに、周辺の環境や施設との調和に配慮します。また、橋梁は数十年以上の長期にわたり利用されるものなので、長く親しめる色彩が必要です。



野水橋（イメージ）

【野川の左岸から野水橋を撮影 大沢五丁目 18 番】



野川の緑と調和した野水橋

【野川の左岸から野水橋を撮影 大沢五丁目 18 番】

(3) 高 欄

高欄は、河川等の特色を踏まえた上で、落ち着いた色彩を用いるような配慮が必要です。また、高欄等の色彩については、建築物の外壁基本色の基準に沿ったものとしますが、他の法令などで使用する色彩が決められているものはこの限りではありません。



新橋（イメージ）

【玉川上水の左岸から新橋を撮影 井の頭五丁目28番】



玉川上水の緑と調和した新橋

【玉川上水の左岸から新橋を撮影 井の頭五丁目28番】

(4) 橋梁添架物

橋梁の側面や桁下に併設される橋梁添架物等は、橋梁で用いる色彩から突出しないように配慮します。



一般的な管路の色彩（谷端二の橋）

【仙川の左岸から谷端二の橋を撮影 新川四丁目 21 番】



橋梁本体と調和している管路の色彩（イメージ）

【仙川の左岸から谷端二の橋を撮影 新川四丁目 21 番】